

# 徳島県立阿波高等学校：「学力・学習状況」改善プラン(2011年度)

## 1 学力向上推進員 省略

## 2 学力向上検討委員会構成

職名	氏名
	省略

## 3 現状・課題

学力	本校には、概ね基礎学力を持った生徒が入学してくる。しかし校外模試などの結果を分析してみると、十分にその学力を伸ばしているとは言い難い。特に例年第2学年では成績の下降傾向が見られる。学年団と各教科との有機的な連携や、教師の更なる教科指導力の向上が課題である。
学習状況	平日の家庭学習時間が30分以内の生徒の割合が学校全体で約30%になるなど、家庭学習が十分でない生徒の割合が多い。またその一方で3年生では、受験勉強のスタートが遅れてしまったことで不安や焦りを感じていると回答する生徒も多い。そのような現状からも、いかに早期に、生徒個々に望ましい学習習慣を定着させるかが課題である。
進路	昨年度は国公立大学に延べ72名が合格し、60名以上合格とした数値目標を達成することができた。また進路未決定者10%以内の目標も達成することができた。今後は、更に一人でも多くの生徒の第一希望の進路が実現できるように、全教員が一丸となって取り組んでいかなければならない。

## 4 目標等

### (1) 学力について

国語科					
重点目標：現代文や古文、漢文を的確に理解する能力や論理的に自分の考えを表現できる能力を育成する。					
学年	具体的目標	数値目標	具体的方策	評価	改善点
1	①基礎的な知識の理解と定着を図る。	①校外模試での偏差値50以上の生徒の数85名以上	①-1 基礎的な知識の理解と定着を図るため、適宜小テストを実施し、不合格者には追試を行う。 ①-2 定期考査や課題テストに向けた学習意欲を喚起させるため、効果的かつ計画的な週末課題のあり方を工夫する。	4・3・2・1	
2	①基礎学力のより一層の充実を図り、読解力や記述力を伸ばす。	①校外模試で全国平均を上回る生徒の割合の増加または維持	①-1 教材研究をより一層充実させ、より質の高い授業を展開する。 ①-2 模擬試験の結果分析を綿密に行い、生徒の弱点に応じた授業を展開する。	4・3・2・1	
3	①応用力を高め、入試問題に対応できる実力を養成する。	①大学入試センター試験の校内平均点と全国平均点との差5点以内	①-1 読解力を付けるための授業を展開し、得点力の向上を図る。 ①-2 適宜小テストを実施し、語彙力や文法・句法力のより一層の拡充を図る。	4・3・2・1	

### 地歴・公民科

重点目標：社会の成り立ちや諸課題について関心を持たせ、それらについて自ら考察する資質を育成する。

学年	具体的目標	数値目標	具体的方策	評価	改善点
	①学ぶ意欲を高め、基礎学力の定着	①プリントやノートの提出率100%	①定期考査の前に学習課題を準備し、提出させる。		

1	を図る。			4・3・2・1	
	② 時事問題について関心を持たせる。	② 時事問題についてのレポート提出 100 %	② 現代社会の諸問題について、テーマを設定しその課題を提出させる。	4・3・2・1	
2	① 基礎学力の定着を図る。	①-1 プリントやノートの提出率 100 % ①-2 定期考査の素点が 34 点以下の生徒 0 人	①-1 定期考査の前に学習課題を準備し、提出させる。 ①-2 定期考査で 34 点以下の生徒の学力の定着を図るため、必要に応じて補講等を行う。	4・3・2・1	
	③ 基礎学力の定着と考察力の向上を図る。	③-1 プリントやノートの提出率 100 % ③-2 定期考査の素点が 34 点以下の生徒 0 人	③-1 定期考査の前に学習課題を準備し、提出させる。 ③-2 定期考査で 34 点以下の生徒の学力の定着を図るため、必要に応じて補講等を行う。また小論文等に対応できるような題材の提供や問題演習を適宜行う。	4・3・2・1	

数学科					
重点目標：数学の原理や法則を体系的に理解し、それらを積極的に活用できる能力を育成する。					
学年	具体的目標	数値目標	具体的方策	評価	改善点
1	① 学ぶ意欲を高め、基礎学力の定着を図る。	① 授業がわかると感じられる生徒の割合 80 % 以上	①-1 教材研究を徹底して行い、より質の高い授業を展開する。 ①-2 生徒に対し、学習の進め方を詳しく説明する。	4・3・2・1	
	② 基礎学力の定着を図り、論理的思考力を伸ばす。	② 校外模試で全国平均を上回る生徒の割合の増加または維持(45 % 以上)	②-1 教材研究を徹底して行い、より質の高い授業を展開する。 ②-2 提出課題の厳選並びに工夫をする。	4・3・2・1	
3	③ 基礎学力および応用力の充実を図る。	③ 大学入試センター試験の数学ⅡBの校内平均点と、全国平均点との差を5点以内	③ 模擬試験の結果分析を綿密に行い、授業や補習等により、生徒の学力の伸長を図る。	4・3・2・1	

理科					
重点目標：科学的事象への興味の喚起、基礎学力の定着を徹底し、思考力を高める。					
学年	具体的目標	数値目標	具体的方策	評価	改善点
1	① 高校理科における基礎学力の定着を図り、学習への意欲を喚起する。	① 単元ごとに行う小テストの得点率の平均 80 % 以上	① 基礎学力の定着を一過性のものにならないために、事前学習をしっかりと行った上で、単元ごとに小テストを実施する。また、その結果を事後学習に活かす。	4・3・2・1	
	② それぞれの科目において、学習への意欲を喚起すると	② 各科目の授業においては、生徒実験や ICT を活用した授業を年間 5 回	② 各科目の授業において、演示または生徒実験や、理科ネットワーク、その他視聴覚教材を用いた授業を可能な限り展開することで、現象や法則の理解を図り、科目に対す		

	もに，現象理解の深化に努める。	以上	る更なる興味を喚起する。	4・3・2・1
3	①各科目において，知識の定着を図るとともに，それを用いた事象への科学的考察力を身につける。	①センター試験において，各科目の全国平均点を上回る生徒の割合が前年度以上	①-1 定期考査や模擬試験の結果等を参考にしながら，生徒の弱点を分析し，そこに焦点を当てた授業展開を行う。 ①-2 特に理系志望者には，早い段階で，将来の学びと連結して科目内容を捉えさせ，学習意欲の更なる喚起を図る。 ①-3 必要に応じて特別補習や学習合宿を行い，重点的に学習の機会を持つことで，生徒の理解を助ける。	4・3・2・1

英語科					
重点目標：生徒の学びへの意欲や関心を高め，自主的・主体的に学習に取り組む態度を身につけさせる。					
学年	具体的目標	数値目標	具体的方策	評価	改善点
1	① 学ぶ意欲を高め，基礎学力の定着を図る。	① 授業がわかると感じられる生徒の割合 80%以上	①-1 教材研究を徹底して行い，より質の高い授業を展開する。 ①-2 生徒に対し，学習の進め方を詳しく説明する。	4・3・2・1	
	② 家庭での英語の学習習慣を定着させる。	① 週末課題の提出率 80%以上	① 英語総合問題集から学習範囲を設定し，週末課題を与える。	4・3・2・1	
2	① 家庭での英語の学習習慣を一層定着させる。	① 週末課題，日々の課題の提出率 80%以上	① 英語構文のテキストを週末課題として，速読演習を日々の課題としてそれぞれ与える。	4・3・2・1	
	② 英文読解力を更に伸ばすため，語彙力や文法・語法の知識を増やす。	② 小テストの平均点 70%以上	② 単語テスト，文法・語法テキストを使った小テストを週1回ずつ行う。また不合格者には追試や個別指導を行い，学力の補充を図る。	4・3・2・1	
3	① 英語力の完成を図り，入試に対応できる実力を養う。	① 大学入試センター試験の校内平均点と全国平均点の差 10点以内	① 模擬試験の結果分析を綿密に行い，その結果を参考にしながら授業方法や補習内容の改善を図る。	4・3・2・1	

## (2) 学習状況について

重点目標：家庭での学習習慣の定着ならびに自ら主体的に学ぶ態度を育成する。					
学年	具体的目標	数値目標	具体的方策	評価	改善点
1	① 早期に，望ましい生活習慣を確立させる。	① 平均家庭学習時間 2.0時間以上	①-1 毎朝の「学習時間調査」を，担任・副担任がチェックし，学習時間，生活状況，また教科での学習の偏りなどについて，コメントを記入したり，声かけを行う。 ①-2 定期的に学年会を開き，生徒の学習状況の把握やその改善法について協議する。	4・3・2・1	

2	① 家庭での学習習慣を定着させる。	①平均家庭学習時間 2.5 時間以上	①-1 毎朝の「学習時間調査」を、担任・副担任がチェックし、学習時間、生活状況、また教科での学習の偏りなどについて、コメントを記入したり、声かけを行う。 ①-2 定期的に学年会を開き、生徒の学習状況の把握やその改善法について協議する。 ①-3 担任が必要に応じて適宜面談を実施し、学習方法や進路についてアドバイスをを行う。	4・3・2・1
3	① 自己の将来を見据え、主体的に学習する態度を育成する。	①平均家庭学習時間 3.0 時間以上	①-1 担任が積極的に生徒と面談を実施する。 ①-2 生徒にしっかりと進路意識を持たせるために、早期に進路講演会を実施する。 ①-3 進路課と連携を取りながら定期的に学年会を開き、生徒の学力向上の手立てや進路実現の方策について協議する。	4・3・2・1

(3) 進路について

進路目標 (数値目標)	評価	改善点
①国公立大学合格者 70 名以上 ②難関大学 (旧帝大・神戸大等) 合格者 5 名以上 ③進路未決定者 10 % 以内	4・3・2・1	

※評価欄の上段には、各具体的目標における数値目標の達成状況について記入する。下段には、達成状況を「4 十分できた 3 概ねできた 2 あまりできなかった 1 できなかった」で判断し、該当番号に○を付ける。